



東方入浴情

※成人向け



東方入浴情

- ・この本は18歳未満の購読、閲覧は禁止です。
- ・禁無断転載

・とある銭湯に入ると、JKくらいの娘と幼女が

俺を出迎えてくれた。早苗ちゃんと諏訪方子ちゃんって言うらしい。



・なんだか常識に囚われないだの、私達を信仰して、守矢信者になってよ！
だのとよく分からないことを言っていたが、
どうやら俺の息子の世話を
してくれるそうなのでこの際気にせず相槌を打っておくことにした。



こうして俺は食べごろJK早苗ちゃんのやわらかお〇んこと、
キツキツながらもまったり感覚の諏訪子ちゃんのお〇んこを
頂くことにした。どちらもかなりの名器で、かなり具合がいい。



何より二人とも非常に嬉しそうに
よがってきやがる。とんだ糞ビッチだ。

パチュリーちゃんがなかなか
図書館から出ずに俺に構って
くれなかったが、

一緒にお風呂入
ってよと言った

ようやく一緒に
来てくれた。

パチュリーちゃん
はお風呂が好きなの
か、すごい気持ち
よさそうに浴槽
に入っていた。

なのでその間、一緒
に来ていた司書さん
にお相手してもらう
ことにした。小さなお口に
俺の息子をブチ込むが、実に
美味しそうに啜え込んでくれた
ので、あっけなく果ててしまった。




パチュリーちゃんのお○
んこは匂いが強い。この
位置からでも匂いが分か
るほどだ。今司書さんが
綺麗にしているみたいだ。

、、匂うってことは実
は、図書館に籠っていて
あんまりお風呂入ってな

いんじゃない。。



そう考えていると、パチュ
リーちゃんが可愛い声で
鳴いていた。もうお○ん
にもトロットロである。
これなら俺の肉欲を受け
入れても大丈夫そうだ。



俺のチ○ポを受け
入れると、パチュ
リーちゃんは気持ち
よさそうに喘ぎ、
呼吸を乱していた。

パチュリーちゃん
の体温は子供みた
いに高く、中も
暖かい。

普段大好きな本に囲まれて
いる上に、献身的な司書さん
と俺のチ○ポにも囲まれてい
るなんて、パチュリーちゃん
は本当に幸せ者だなあ。



・今日はアリスのお家で魔理少とお泊りだ。
少し狭いけど、お風呂も3人で一緒に入るんだ。
俺はまずアリスの体を洗ってあげることにした。

{ }

・アリスの体は敏感だ。
俺がちょっと体を洗ってあげただけで、アリスの大事なところはすぐに大洪水である。
なんていやらしい娘なんだ。

アリスをたっぷり愛した後は、ちゃんと魔理沙の
ことも構ってやらねばなるまい。



魔理沙はお尻が強いけど、お尻が弱い。

なので執拗に魔理沙のア〇ルを可愛

がってあげたら魔理沙は大変感じて

まい、おもらしをいってしまった。




・3人でするセックスは非常に気持ちいい。俺達は互いにキスしたり舐めたり入れたり揺ったり吊ったりとにかくやれることやって愛し合った。



・だがアリスと魔理沙が途中から完全に二人の世界を作って楽しんでしまっている状況になっていて、実際には俺が大半空気だった。

まあ、これはこれで見ても興奮するので悪くは無い。



湖に來ると、可愛らしい妖精さん
達が水浴びをしていた。

こっちのチルノちゃんという
娘は、裸を見られても恥ずか
しいと思わないのか、平気で
その姿で遊んでいた。

これは俺が面白い遊びを教えてあげるしか
ないと思いフェラチオさせたが、何が面白
いのかあまり分かっていないようで、きよ
とんとした顔で俺のオチンチンをはむはむ
していた。そこがまた可愛い。



そうしているとき、チルノ
ちゃんと一緒に水浴びして
いた大ちゃんという娘は、
顔を真っ赤にしてこちらを
見ていた。



恥ずかしがってはいるものの、俺のオチ○チン
に興味津々だったのか、フェラチオさせたら
夢中になって舐めてくれた。一生懸命さが可愛い。

あまりに妖精さんが可愛かったので、たまらず
俺のチ○ポを小さなアソコにブチ込んでしまった。



体の大きさから考えても
やっぱり中はキツキツ
で、すぐにイッてしまい
そうだった。

最初は苦しそうでも、
次第に感じてきたのか
ぴくぴくと反応してい
た。彼女達にとっては
未知の感覚なのだろう。

それからチルノちゃんと
大ちゃんを交互に犯し続けた。

あまりにもこのセックスに夢中になっていて、
気が付けば日が暮れていた。

チルノちゃんも
最初はこの遊び
を理解していな
かったが、今で
はお気に召して
いただけたよう
である。

やはり、幻想郷での
生活はやめられない。

fin

今日もまた行きつけのお風呂屋に女を漁りに行ったら、見知らぬ男二人に声をかけられた。

「こっちに来て一緒に入らないか？」

冗談じゃない、俺にそんな趣味はないんだ。

その場を離れようとした俺の手をいきなり掴み眼鏡の男は言った。

「つれないじゃないの」

瞬間、背中に悪寒が走る。

先ほどまでそこにいたはずのもう一人の袋をかぶった男がいつの間にか背後に回り、視線で俺の尻を嘗め回していた。

一体なんなんだこいつらは……！



saikun

■ あとがき ■

- ・この本をお手に取ってくださった方、
超絶ありがとうございました！
- ・まだまだ活動の幅も狭いので、
もっと色々やっていきたいと思います。
- ・またどこかで何かしら描いてると思いますので、
その時に僕の事を覚えてくださっている方が
いらっしやいましたらよろしくお願いします、、、！



pixivID=193686

twitter=yasunaoz

■ 奥付 ■

発行 安直 区
発行者 やすなお
発行日 11. 3. 13 (sun)
印刷所 ねこのしっぽ様
連絡先 yasunao_z@yahoo.co.jp



東方入浴情



11. 3. 13 (Sun) 安直区